

富士紀行（20） 富士信仰と須走

(H12/9/21 記)

万葉集の代表的歌人山部赤人は、「不尽山を望くる歌」の中で、「・・・天地の別れし時ゆ 神さびて高く貴き 駿河なる 布士の高嶺を 天の原 振り放け見れば ・・・語り継ぎ 言い継ぎ行かむ 不尽の高嶺は」と読み、その反歌が有名な「田子の浦ゆ うち出て見れば真白そ 不尽の高嶺に雪は降りける」である。

富士山は今でこそ観光的要素を多分に濃くしているが、本来は信仰の対象そのものであった。

山岳に宗教的意味を与えて崇拜し、又山岳を対象として種々の儀礼を行う山岳信仰は世界各地で見られ、日本では古来山岳は神霊の住まう他界として崇められてきた。

この山岳信仰の代表的なものが、富士信仰である。その秀麗な山容は古代より、自然崇拜の対象であった。吾妻鏡に仁田四郎忠常の一行が人穴に入り、不思議な体験をしたあげく、たたりにあったことが記されている。浅間大菩薩御在所とみなされ、洞窟の主は白髪の妖婆とも言う。この伝説もかぐや姫伝説と同じく人穴草紙となって世間に流布した。

江戸時代には、修験道の色彩を弱め、民間信仰の富士講が中心となり、富士講の一派が不二道となって、倫理観の高い教理を打ち出した。明治に至って富士講は三つの教団（丸山教、扶桑教、実行教）に分かれた。

富士講と言うのが、江戸時代盛大に行われた。これは、毎夏富士山に登って浅間大菩薩を拝する講集団であり、化政（文化文政）時代には江戸八〇八講と言われるほどであった。八〇八あったというのでは無く、それ程盛大であったということであろう。一般的な講は、五年を一期として人数を集め、年々五分の一ずつ登山して一期を終えるというものである。この間、講員は自己の費用を月掛けした。

富士講登山者の信仰活動の目的は、山上で日の出を拝することで、これを御来迎または御来光と称した。更に山中に胎内穴があり、聖地視され、この洞穴に入り出てくる（胎内くぐり）は、富士詣により再生することを潜在的に意味したらしい。富士講では、富士に詣でることは、丁度極楽に行つて、戻ってくることに同じだと説明していた。

富士信仰を各地に広めるために積極的に活動したのが、神職の一つの御師である。御師は特定の社寺（後には神社を主とするようになった）に所属して、その社寺へ参詣者を招き、祈祷・宿泊などを取り計らうものであり、熊野や伊勢の御師が有名である。伊勢の御師は内宮・外宮併せて740家にも達した。富士山各登山口も伊勢や熊野の御師に倣って、御師制度が発達した。御師は村々をまわり、お札を配るなどして布教活動をするほか富士山に参詣する人を案内し、杖や装束を販売したり、宿所を提供するなどの営業を行った。須走口は南関東からの道者（参詣者のことをこう呼ぶ）が多かったようだ。相模・武蔵・下総・上総・安房の国々に檀那を持っていたようだ。

須走には、当初は12名の御師がいたけれども、寛延2年(1749)には17名が小田原藩寺社奉行から正式な御師としての認知を受け、17名連名の申し合わせ状を交わし、御師制度が確立した。これに対して、道者宿を経営する百姓達の反発があったけれども、小田

原藩は御師制度を保証し続けた。須走の御師は更に京都の公家吉田家（全国の神職に対する装束の許認可権を幕府より保証されていた。）の許状を受けることで、神職としての地位を確固たるものにした。

富士講の宿としての須走では、2ヶ月で1年分を稼ぐと言われ、7・8月は凄まじい忙しさであったという。今の須走からは想像出来ないと言ったら言い過ぎだろうか。どの宿も夏の時期だけ、男衆、女衆を雇った。昭和初期に須走にあった富士講の宿は、富士本屋、扇屋、武蔵屋、大申学、小申学、米山館、大米屋、甲州屋、穂積館、高村屋の10軒ほどであり（町史9巻594p）、現在も営業しているのは・・・である。

明治31年から大正8年までは、御殿場と須走間に馬車鉄道が運行されていたが、富士講の人々の多くは、御殿場から歩いて須走に来た。白装束、手甲脚半、金剛杖をつき、講毎にまとまって歩いて来る。なかには、「六根清浄・御山は晴天」と唱えながらお金をまきつつ来る講もあるのだが、、そんなとき須走の子供達は先を争って駆けだしたという。（町史9巻595p）

富士信仰の広がりとその信仰ぶりの程度を示すものに富士塚がある。東京の駒込富士や浅草富士など各地の富士神社や浅間神社の境内には、富士山をかたどった模造富士や富士塚が作られ、山開きの日に白い行者姿の富士講中の者が富士禅定に倣って登る風習もあり、一般の参詣者もこれを行った。富士塚の始まりは、富士講の祖と言われている藤原角行の教えを広めた食行身禄（しょくぎょうみろく）の直弟子が偉大な師を追慕する目的を持って後に高田富士と呼ばれる富士塚を作ったことにある。私がかって住んでいた練馬区北町の浅間神社にも明治5年築の富士塚があり、都内だけでも40以上、近隣県含めると200位あるという。